

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
広島大学附属小学校	国立大学法人広島大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
広島大学附属小学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/kyoikukatei

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
広島大学附属小学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about2	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about2

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

公開研究会において、外国語科（英語）の研究授業を広く県内外の教員や学校関係者に公開することでその取組を紹介している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

中学年で「外国語活動」の時間を増設し、総合的な学習の時間の時間数を減らしても総合的な学習の時間の目標を十分達成できるとするもので、外国語活動の内容と総合的な学習の時間の内容や活動を有機的に関連付けることで、全体としては外国語活動における児童の意欲の高まりと総合的な学習の時間における探究活動の深まりに繋がっている。課題としては、学年に上がるにつれて外国語活動における個人差が拡大し個別な支援が必要な児童が増えている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

外国語活動の時間数が増えることで、その教科に関わる児童の評価を丁寧に実施でき、その結果、個々の児童の成長と課題が明確になり、指導方法の改善につながっている。

また総合的な学習の時間では、他の教科で学んだことをさらに探究的に学ぶことの面白さを実感し、科学研究等の主体的に探究活動に取り組む児童が増加している。

4. 課題の改善のための取組の方向性

高学年になるにつれて児童ごとの個人差が拡大する点について、個々の児童に対する個人指導を実施する予定である。また楽しく学ぶことができない児童がいる点については、児童の実態に合わせた目標と学習活動を設定するとともに、間違いを恐れず頑張ること、学習意欲の向上に焦点を当てた指導の改善をさらに図っていく。